

漢法苞徳塾資料	No. 300
区分	基礎理論・経穴
タイトル	歴代の十四経脈・正穴数の変遷
著者	八木素萌
作成日	1997.11

## 1. 正経の正穴数

年代	書籍名 (著者)	穴数		
		単穴	双穴	計
前 475 ~-221	内経〈素問・靈枢〉	約 25	約 135	約 160
三国・魏 256~260	甲乙経 (皇甫謐)	49	300	349
唐 682	千金翼 (孫思邈)	49	300	349
宋 1026	銅人 (王惟一)	51	303	354
元 1341	十四経發揮 (滑伯仁)	51	303	354
明 1601	鍼灸大成 (楊繼洲)	51	308	360
清 1817	鍼灸逢源 (李学川)	52	309	361

## 註

- 『銅人』王惟一と『十四経發揮』滑伯仁は、『甲乙経』皇甫謐や『千金翼』孫思邈に比べて、単穴では2穴増加し、双穴では3穴増加している。単穴の2穴は靈台・腰の陽関で『素問』氣府論第59の玉冰・註から、双穴の3穴は、膏肓・厥陰は『千金方』から青靈は『聖恵方』から取られている。
- 『鍼灸大成』楊繼洲では5穴増加している、そのうち、眉衝は「脈経」から、督兪・氣海兪・関元兪は皆『聖恵方』から、風市は『肘后方』から取られている。
- 『鍼灸逢源』李学川では単穴では中枢の1穴、双穴では急脈の1穴で、何れも『素問』氣府論第59の玉冰・註から取られている。

## 2. 記載されている奇穴の数

- イ. 『千金方』の病証の治療を述べている種々の篇中に散見されるものが187穴となっていて、諸書の中では最も多い。
- ロ. 『奇効良方』では専ら奇穴を記述している、全部で26穴である。
- ハ. 『鍼灸大成』楊繼洲では経外奇穴を専門に記述する篇を設けている。其処には35穴が記載されている。
- ニ. 『類経図翼』は奇兪類集と言う奇穴専門に記述する篇を設け84穴を記述。
- ホ. 『鍼灸集成』には144穴の奇穴を記述している。